

厚生労働省科学研究費補助金
「難治性疾患等政策研究事業（難治性疾患政策研究事業）：重症多形滲出性紅斑
に関する調査研究（H29－難治等（難）－一般－028）」
平成 29 年度 第 1 回班会議議事録

日時：2017 年 7 月 29 日（土曜日）9：30～16：00

場所：朝日生命大手町ビル フクラシア東京ステーション会議室 6 階

住所：〒100-0004 東京都千代田区大手町 2-6-1 朝日生命大手町ビル 5F/6F

1 SJS/TEN 慢性期の診断基準について（外園班の報告）

外園千恵（京都府立大学）

外園先生から慢性期の眼所見の実態が報告され、審議により慢性期の患者を診断できるように現有の診断基準に「慢性期（発症後 1 年以上経過）では眼瞼および角結膜の癒痕化がみられる。慢性期（発症後 1 年以上経過）で粘膜炎病変が眼瞼および角結膜の癒痕化の場合、主要所見 4 は必須ではない。」と追記することが承認された。

2 厚生労働省難病代表者会議報告と年度研究計画

森田栄伸（島根大学）

森田研究代表者から難病研究代表者会議の資料をもとに難治性疾患政策班の役割と業務、平成 29 年度の年間計画が報告された。平成 28 年度第 2 回班会議の議事録をもとに立案された平成 29 年～平成 31 年度の研究計画が報告され、了承された。

3 国立保健医療科学院竹村様、厚生労働省難病対策課福井様、日本医療研究開発機構足立様からご挨拶と研究遂行へのアドバイスをいただいた。

4 診療拠点病院対象の講習会の実施

森田栄伸、新原寛之（島根大学）

診療ガイドラインの普及の目的で、大学病院を中心に重症薬疹診療拠点施設を認定することが承認された。今年度は SJS/TEN の登録数の多い 13 件の大学病院を対象とする、期日は東京支部学術大会に合わせて 11 月 19 日（日）午後とし、大会会場に講習会場を確保することが承認された。講義担当施設は、横浜市立大学、愛媛大学、京都府立大学、島根大学が予定された。合わせて病院内の連携体制を書面にて確認することが承認された。

5 SJS/TEN のステロイドパルス療法の進捗状況

森田栄伸（島根大学）

森田研究代表者から重症薬疹に対するステロイドパルス療法の有用性に関する多施設共同臨床研究は島根大学、横浜市立大学、愛媛大学、杏林大学、島

田市立病院、(後日奈良県立医科大学)の倫理委員会で承認され、島根大学で1例登録されたことが報告された。

6 重症薬疹発症に関与する遺伝要因の解析

蒔田泰誠(理化学研究所) 水川良子(杏林大学)

蒔田先生から本研究班で収集した検体の解析から、ラモトリギンによる薬疹とHLA-DRB1*04:05との関連が確認されたことが報告された。今後も検体の収集を継続して行い、併せて臨床情報シートを事務局(島根大学へ以降)に提出することが合意された。

7 アロプリノール薬疹発症におけるTNF遺伝子多型の関与

新原寛之(島根大学)

新原先生からアロプリノール薬疹がTNF α 遺伝子多型との関連がある結果となっており、確認するためにアロプリノール薬疹とカルバマゼピン薬疹の血清TNF α 値を収集し、確認することが合意された。島根大学にて研究計画書を作成し、倫理委員会へ申請することが承認された。

8 事務局連絡として、次回班会議は2018年1月13日(土)の予定であること、Regi-SCAR meetingが2017年8月10~13日Freiburgで開催、I-SCARが2018年11月10日松江市で開催予定であることが報告された。

9 Taiwan SCAR から2件の報告があった。

1. Annual Report from Taiwan-SCAR meeting

Wen-Hung Chung (Chang Gung Memorial Hospital)

2. Anti-osteoporotic agent-induced Severe Cutaneous Adverse Drug Reactions and their association with HLA in Asians

Chun-Bing Chen (Chang Gung Memorial Hospital)

10 DIHS/DRESSのバイオマーカーとしての血清TARC値

浅田秀夫(奈良県立大)

本研究班での血清TARC値の迅速測定がDIHS/DRESSの診断に有用であるとの研究成果から、DIHS/DRESSの診断における血清TARC値の迅速測定を先進医療として申請し、保険適用に向けて本研究班で取り組むことが合意された。血清TARC値の迅速測定に係る費用の問題が提起されたが、国立大学附属病院については、先進医療加算取得に伴う補助金を取得することで対応できる可能性があることが提案された。

11 DIHS/DRESSの重症度スコア設定

新原寛之(島根大学)

DIHS/DRESS の重症度スコア設定のための臨床研究計画が提案され、島根大学で倫理委員会へ申請することが承認された。

12 DIHS/DRESS に対するステロイド療法

藤山幹子、佐山浩二（愛媛大学）

DIHS/DRESS におけるステロイド療法の指針を作成するためのデータ集積の目的で、ステロイド投与量や投与タイミングなどを調査する臨床研究計画が提案され、DIHS/DRESS の重症度スコア設定のための臨床研究計画に組み入れて、島根大学で倫理委員会へ申請することが承認された。

13 DIHS/DRESS に対する短期シクロスポリン療法

橋爪秀夫（市立島田市民）

DIHS/DRESS に対する短期シクロスポリン療法が有効であった症例報告があることから、DIHS/DRESS に対する短期シクロスポリン療法の有効性を評価する臨床研究を実施することが承認された。

14 4 件の症例報告がなされた。

1) 経過中無顆粒球症を生じたポリコナゾールによる DIHS の 1 例

橋爪秀夫、兼子泰一、影山玲子（市立島田市民病院）

2) ゼローダによる好酸球性膿疱性毛包炎様発疹の一例

野村尚史、中島沙恵子、椛島健治（京都大学）

3) 悪性黒色腫に対するニボルマブ投与後に生じた中毒性表皮壊死症の 1 例

渡邊裕子、山口由衣、高村直子、相原道子(横浜市立大学)

4) マイコプラズマ感染により発症した Stevens-Johnson 症候群の 2 例

濱 菜摘、勝見達也、阿部理一郎（新潟大学）